

令和4年度

明るい家庭づくり

児童生徒作文集



倉敷市教育委員会

もくじ

優秀作文

◆小学生の部◆

やさしいぐりのめいじんはこまつたさん！	倉敷西小学校 一年	山崎 仁乃	1
おじいちゃんおばあちゃん	長尾小学校 二年	赤堀 葉月	2
ぼくのお母さん	長尾小学校 三年	道廣 達也	3
わたしにいちちゃん	箭田小学校 四年	見立 彩歌	4
私の弟	琴浦西小学校 五年	天元 萌衣沙	5
ぼくの背中に	下津井西小学校 六年	西川 天	6

◆中学生の部◆

祖父母からの定期便	倉敷天城中学校 一年	西井 結惟	7
笑顔の連鎖	東陽中学校 二年	下元 彩加	9
逆境の中で咲く花のように	西中学校 三年	妹尾 心福	11

優良作文

◆小学生の部◆

かぞくのじまん	第四福田小学校 一年	北條 杏	13
わたしのおとうさん	船穂小学校 一年	淺野 姫依	14
わたしのじいじ	天城小学校 二年	金丸 愛理	15
わたしの大切なかぞく	玉島小学校 二年	上野 朱音	16
家でいでのわたしの仕事	第一福田小学校 三年	中田 さら	17
家族みんなでこんだて会ぎ	長尾小学校 三年	松下 絢音	18
ぼくの家が明るい理由	中庄小学校 四年	松本 一楓	19
目に見えない愛じょうに支えられて	玉島小学校 四年	石井 彩馨	20
家庭の中のぼくの仕事	葦高小学校 五年	糸島 宏真	21
がんばる家族	帯江小学校 五年	藤原 ひなた	22
私のお父さん	西阿知小学校 六年	小西 花歩	23
スマイル・スマイル	琴浦西小学校 六年	石川 逞馬	24

◆中学生の部◆

僕の弟	玉島北中学校 一年	眞賀里 陽人	25
我が家の変化	真備東中学校 一年	田辺 桜咲心	27
「母さんっ！」	多津美中学校 二年	時山 彩音	29
ここを支える	倉敷天城中学校 二年	五十君 春希	31
家族との思い出	琴浦中学校 三年	船橋 俊仁	33
長生きしてね。	船穂中学校 三年	津郷 華乃	35

◆小学生の部◆

やさいづくりのめいじんはこまつたさん！

倉敷西小学校 一年

山崎 仁乃
やまざき しの

なす、きゅうり、もも、トマト、レタス：
たくさんのやさいやくだものが、じいじのは
たけでぞだつています。どれも、ほつぺたが
おちるほどおいしいです。じいじは、やさい
づくりのめいじんなんだけど、じつは、こま
つたさん。そのこまつたさんじいじをしょう
かいします。

わたしには、うまれたときからずっといつ
しょにいる「ソメ」といういぬのぬいぐるみ
があります。とてもたいせつにしています。じ
いじは「ソメ」をとろうとするんです。まえ
にじいじのおうちにもつていったとき、

「ソメちゃん」

と行ってだつこしてベロベロしてからは、も
うぜったいもつていけないときめました。で
も、じいじのおうちにいくたびに

「ソメをもつてきてねんか。」

と行ってポンポンおこるんです。かえるとき
にはかならず

「つぎはソメをもつてきてな。」

と行ってきます。としがうんとうえなのに、
まるでこどもみたいなじいじです。

そんなこまつたじいじだけど、やさしくて
だいすきです。はたけのおしごとをいつしよ
うけんめいして、なつには、わたしのすきな
とうもろこしやさすいかをあせをかいてうえて
くれます。まいにちたべるおこめもつくつて
くれます。こころをこめてつくつてくれるか
らすごくおいしいです。これからもしつぱい
やさいをつくつて、げんきでいてほしいです。
ソメをたくさんとつてくるけれど、たまには
もつていくからね。



おじいちゃんおばあちゃん

長尾小学校 二年

あかほり はづき
赤堀 葉月

「わらってあげねえや」

「言い、おばあちゃんがおこりはじめました。

「わらったら負けじゃ。」

とおじいちゃんもおこりはじめました。わたしとにらめっこをしていた時のことです。

おじいちゃん、おばあちゃんは、九十七才です。二人はよくケンカをします。ほかに「はづきと遊んであげねえや。」

とおこったおばあちゃんに

「後から、遊ぶんじゃ。」

とケンカになったこともあります。

おじいちゃんは昔、海上ほあんかんで外国にも行っていたので一年で家へ帰れる日は、二日間ぐらいだったそうです。だから、おばあちゃんは、一人で家族のことをしないといけなく、大へんだったとお母さんがわたしに話してくれました。わたしは、おばあちゃんはどうして、おじいちゃんにおこるばかりするのかなと思ったりしました。ずっとおじい

ちゃんとはなれてくらした時は、さみしかったです。たはずなのに。

でもわたしは、気づきました。

「おじいさん、これ食べね。」

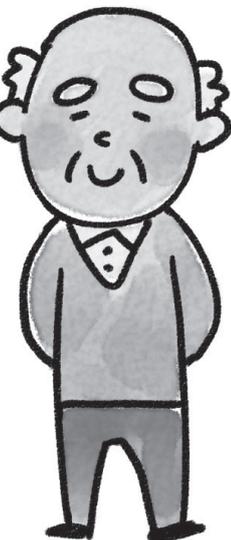
とか、出かける時は、

「おじいさん、おさいふもった。」

と、おじいちゃんのことをとてもよく心ぱいしていること。おじいちゃんのすきな食べ物をよく作ること。おばあちゃんは、おじいちゃんのことを大切にしていることに。

ケンカはよくするけど、二人はやつぱり仲良しです。今は、コロナのえいきょうで会えない、おじいちゃん、おばあちゃんにこの作文を読んであげたいです。そして、

「長生きをしてね。」



ぼくのお母さん

長尾小学校 三年

道廣 みちひろ
達也 たつや

ぼくの家族の、メンバーは、お母さんと、姉と妹です。お父さんは、いません。お父さんと、お母さんは、ぼくが三才のときに、りこんしたと、お母さんから聞きました。ぼくは、お父さんの顔も声もおぼえていません。

姉は、ぼくより、二才年上です。妹は、ぼくより三才年下です。姉は、小学生だけど、ぼくと同じ小学校に行っていない。なぜならぼくの姉は、しょうがいがあつて、しゃべることができないからです。だから、しえん学校という小学校に行っています。

まい日、お母さんは、姉のお世話をしています、たいへんそうです。きがえのてつだいやオムツのこうかんをしていて、いそがしそうにしています。姉は、一人で小学校へ行けないので、いつもお母さんが車で姉をつれて行っています。

まい日、きつとたいへんだと思うけど、お母さんは、いつもニコニコしていて家族にや

さしいです。おいしいごはんも作ってくれるしいつしよにゲームもしてくれれます。休みの日にお母さんといつしよにゲームをするのが楽しいです。おかあさんは、えい語がしゃべれるので、ぼくにときどきえいごを教えてくださいます。

ことしのなつ、おじいちゃんおばあさんと妹といつしよに、はじめてひこうきにつておきなわへ、りよこうに行きました。ほんとうは、お母さんもいつしよに来てほしかったけれど、姉のお世話があるので、いつしよに行けませんでした。お母さんがいなくて、少しさみしかったです。いつかお母さんといつしよに、りよこうに行つてみたいです。

りよこうから帰つて家についてお母さんの顔を見たとき、すごくうれしくてあんしんした気もちになりました。やつぱり家つていいなと思いました。おきなわりよこうは、すごく楽しかったけれど、家も同じぐらい楽しいです。ホテルのベッドもすきだけど、家に帰つて家族みんなでいつしよにワイワイしながらねるのもすきです。りよこうで食べたごちそうもおいしいけれど、お母さんのごはんも

同じぐらい、おいしいです。家は、ぼくにとつて一番あんしんできる場所です。

お母さんが元気がないと家の中は元気がなくなりません。お母さんがぐらいと家の中はくらくらします。お母さんが元気で明るい、家の中も明るくなります。お母さんは家の中の、あかりみたいだなと思います。

毎日、お母さんがぼくのことを大すきと言つてくれて、少しはずかしいけれど、本当はうれしいです。これからもお母さんがやさしく明るくぼくの家族を、てらしてくれるといいなと思います。



わたしとにいちちゃん

箭田小学校 四年

見立 みたち 彩歌 さやか

わたしの家族は四大家族です。パパは、岡山市内に電車で働きに行っています。お母さんは、お調子者で、すぐにおどりだし、とてもおもしろいです。にいちちゃんは、中学生でゲームが好きで、勉強がきらいなのに頭がいいです。わたしは、お手伝いやお花が好きです。

にいちちゃんとわたしは、毎日、毎日、ケンをしています。どっちが先に当たったとか、どっちが先を取ったとか言い合って、お母さんにおこられるか、わたしが泣くかで、ケンカが終わります。

でも、お母さんに聞いてみると、小さいころはとっても仲が良かったと教えてくれました。わたしが、おなかにいたときには、にいちちゃんがお母さんのおなかに話しかけてくれたり、本まで読んでくれたりしたそうです。その話を聞いて、ちよつと笑ってしまいました。あと、うれしかったです。

そのあとに、わたしが小さい時のビデオを見ました。わたしのよこに、にいちちゃんがいて、わたしの頭をなでてくれて、ニコニコわらっていました。お母さんが、

「最近あまり笑わないけど、笑ったにいちちゃんかわいじやろ。さやかをかわいがつてくれたんでえ。」

と言いました。ビデオの中のわたしも、にいちちゃんもすごく笑っていました。昔は、仲が良かったということがよく分かりました。

なんで仲が悪くなったのかお母さんに聞いてみました。わたしがまだ小さかった時、落ちていたにいちちゃんのえん筆を拾って、にいちちゃんの太ももにさしてしまったそうです。そのころから少しずつ仲が悪くなっていったそうです。

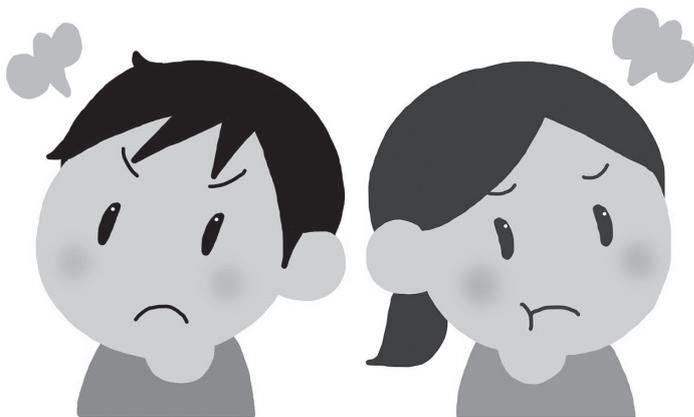
「二人ともやさしい子なのになあ。」

とお母さんは言いました。

わたしは、タイムマシンがあったら、赤ちゃんのころにもどりたいです。そして、にいちちゃんの太ももにえん筆をささないようにしたいです。本当はにいちちゃんと仲良くしたいと思っています。ゲームを仲良くすることもあるのに、なぜかケンカになってしまうの

です。でも、明日から少しだけでもやさしくしたいです。

にいちちゃんとわたしの小さいころの話を聞いて、今は仲が悪いけど、昔のにいちちゃんのようにわたしもだれにでもやさしくしたいし、にいちちゃんにも少しやさしくしようと思いました。



私の弟

琴浦西小学校 五年

天元 あまもと
萌衣沙 めいさ

「行ってきます。」

大きな声で弟が言った。私には三年生になる弟がいる。今からおばあちゃんとアドベンチャーワールドに行くのだ。本当は一年生になる年の春、連れて行ってくれる予定だった。でもコロナがはやっていたので中止になっていたのが今年になった。それも二泊だ。私の時は一泊だった。遊んでいる時に足の骨を折って、いたかった事ばかり覚えていてる。

弟がいなくなつて私はワクワクした。なぜなら、お母さんをひとりじめできるし、弟がいるから私はいろいろな事をいつもがまんしているからだ。見たいテレビ・ゲームも全部ゆずっている。出来ない事を手伝ってあげたりすることも多い。それを何もしなくて好きな事をずっとできるからともうれしいと思つた。

夜、弟からお母さんにテレビ電話がかかってきた。ものすごく楽しそうで、

「エビのおすしをたくさん食べた。」

とニコニコしている。

「健心、私のおみやげ買ってくれた？」

と聞いてみたら、

「買ってないよ。」

と弟は言った。自分の物ばかり買ってもらつていて、少しイラツとした。

小さい時はいつも言うことを聞いてくれたのでケンカは少なかったけど、最近は毎日ケンカになる。言い返してくるからカツとなつて私も言ってしまう。ケンカをしたらいつも怒られるのは私だ。

弟が旅行に行つて二日目、ふとお母さんに

「健心は？」

と言つてしまった。いつもとくらべて、部屋はシーンとしている。いつもはうるさいのがいやなのに、なぜか少しさみしくモヤモヤしている。

私は、弟のことが全部きらいなわけではない。毎日「お姉ちゃん」と呼んでくることや探しに来るところ。いつも飛びついてきて「大好き」と言ってくる。でもまたすぐにケンカをして気持ちがコロコロ変わる毎日。

いつもこのくり返し。

お母さんが

「むかえに行くよー。」

と言つたので私もついて行つた。改札口で待っている階だんから三人が降りてきた。

「健心。」

と声をかけると弟は

「ただいま。」

と私にだきついてきた。こんな時の弟は本当にかわいい。

「おみやげちゃんと買ってきたよ。」

と弟は言った。それを聞いて私は笑顔になつた。毎日ケンカをしても、居なかつたらさみしいし、やっぱり弟のことを大切に思っているんだ、と私は思った。



ぼくの背中に

下津井西小学校 六年

西川 にしかわ 天 てん

「どうか、大丈夫であります様に。」
一学期の終業式を無事終えた翌日の朝、ぼくは、母と病院に行つた。

ぼくは双子で、母はシングルマザー。ぼくたちは、祖母と一緒に四人で暮らしている。祖母も、母も毎日仕事が忙しく、ぼくは双子の兄の凛と留守番するのが日常だ。ある日、ぼくと凛が遊びで戦いをしていると、凛のひじがぼくの背中を強打した。
「うっ、痛い。」
と、思ったのは一瞬の事で、まだ戦いは終わらない。

「ああ、今度は手が痛い。」
そんな事を思っているうちに、背中の痛みは忘れてしまっていた。

それから数日経つてお風呂に入っていると、背中に小さな膨らみがあることに気がついた。先日の出来事と、背中の膨らみの事を母に伝えると、ぼくと凛はものすごく叱られた。母

は長い説教を終えると、

「内出血もしてないし、何か心配だから、念のために病院に行つてみようか。」

と、少し不安そうな顔で、ぼくに問いかけた。

夏休み初日、ぼくは朝一番で母と病院へ向かった。診察とレントゲン検査を終え、もう一度、診察室に呼ばれた。先生の顔は、少しこわばっている様に見えた。

「すぐに紹介状を書くので、詳しい検査をしてみましょう。」

そう言った後、先生は病気についての説明を続けた。ぼくも、もう六年生。

「えー。ガンかもしれないって事？」

と、心の中でさげんだ。母は、ぼくに、

「大丈夫。大丈夫よ。」

と、笑顔で何度も言った。ぼくの不安を取り除くかの様に、優しく背中をなでた。

その日のうちに大きな病院で検査をし、家に帰れたのは夜だった。母は、こっそり泣いたんだろう。ぼくに泣き顔は見せなかったけれど、ぼくは気づいているよ。

「神様、ぼく、いっぱい頑張ります。だから、これ以上お母さんを悲しませないで下さい。」
そう願いながら、ぼくは眠りについた。

後日、病院から連絡があり、母と結果を聞きに行った。

「一番恐れていた病気じゃなかったです。」

先生にそう言われ、母もぼくも、ほっとした。

「神様っているのかな？もしいるのなら、ぼくの願いを叶えてくれて、ありがとう。」

ぼくの母はシングルマザー。ぼくと凛は、母にとってかけがえない宝物。だから、ぼくたちは元気で、幸せになるんだ。それが、ぼくの大切な人の願いだから。母は、お父さんで、お母さん。ぼくも大人になったら、祖母や、母の様に優しく、強い人になりたい。家族全員が元気で、楽しく過ごせる事、それだけで幸せなんだなと気づく事ができた。どうか、この幸せが続きます様に。



◆中学生の部◆

祖母からの定期便

倉敷天城中学校 一年

西井 結惟

私はこの夏、二年半ぶりに祖母の家に帰省した。毎年、祖母の家に帰省することが我が家の恒例行事だったが、コロナ禍で小学四年生以来帰っていなかった。久しぶりの祖母の家は、以前と全く変わることなく、緑がきれいで空気が澄んでいた。私は、家の裏まで歩いていき、田んぼや畑、きれいな緑の山々、気持ちよさそうに泳ぐ魚を眺めた。この二年半、この風景を何度も思いめぐらせていた。なぜなら、我が家には、「定期便」が届くからだ。それは、祖母からのダンボールいっぱいのお米と野菜だ。ダンボールを開くと、新聞紙につつまれた野菜たちがぎっしりつまっている。その新聞紙を広げると、季節の野菜がひよつこりと顔をだす。祖母が作る野菜は、今まで見たこともないほど大きなにんじんや色とりどりのミニトマト、つやや

かな緑の大小様々な大きさのピーマン、どの野菜も個性いっぱいだ。ここで育つ野菜とお米は自然の恵みに満ちあふれている。その野菜たちを眺めながら、いつもこの場所と祖母の笑顔を思い出していた。

今度祖母の家に行く時は、畑の野菜がどんな風になっているのか、じっくり観察してみたいとずっと思っていた。畑を歩き、キュウリやトマト、いんげん、オクラ、色々な野菜を一つ一つ観察した。私は野菜が育つ過程でどんな状態から花が咲き、実がなって成長していくのか、実際にはあまり見たことがない。唯一、小学三年生の時にトマトの栽培をしたとき、毎日欠かさず水やりをし、やっと小さなトマトが収穫できたくらいの記憶しかない。祖母にとって、畑や田んぼの手入れをすることは、ごく当たり前の事なのかもしれない。でも、私にとっては、小さなトマトを収穫することでさえも大変な事だった。畑をぐるっと見渡して、私は祖母に尋ねた。「ばあちゃん、ここ何で柵しとん?」「いのししが山から下りてきて、野菜を食べるんよ。農薬使つとらんから、虫もくるし、

色々手入れが大変なんよ。」

いつも「定期便」の中に詰められている野菜やお米は、祖母の日々の努力の賜物だ。そのおかげで、私たちが安心してお米や野菜を食べることができていることに、感謝しかない。

私はスイカがなっている畑まで歩いて行つた。足元をみると、見たこともないほど大きなスイカが、ごろごろとなっていた。「ばあちゃん、一個とってもいい?」私は祖母に声をかけた。どれにしようかと迷ったが、中でも一番大きくて食べごろのスイカを畑から家まで持って帰ることにした。しかし、想像以上の重さで、腕が痛く、途中で何度かくじけそうになった。そしてやつとの思いで台所まで持っていく、早速祖母にスイカを切ってもらって、縁側で食べた。採れたてのスイカは本当においしくて、格別だった。スイカを食べて、しばらくずっと景色を見ながらぼーっとしていた。この場所にいると、なぜか心が落ち着く。いつも時間に追われている気がするが、ここに来た時だけは、なぜか時間がゆつくりと流れ、空を見上げて、辺りの景色を見わたす心の余裕ができる。

コロナ禍で今まで当たり前だと思っていた

ことが、当たり前でなくなつた。祖父母が元気で野菜やお米を作ってくれる当たり前がずつと続いてほしい。私は生まれてから、家で炊いて食べるお米は、祖父母が作ってくれたお米だけだ。そして我が家に届く「定期便」は祖父母からの元気の便りだ。いつも祖母が言う決まり文句は、「お米と野菜が届くうちは、ばあちゃんたちが元気になっている証拠だから安心して」そんな当たり前が当たり前前でなくなる時がくるのではないかと一瞬頭をよぎつた。それをかき消すように、祖母が作ってくれたおにぎりを口にほおぼる。当たり前前は当たり前なんかじゃなくて、多分奇跡だ。この小さな幸せの積み重ねが続くこと自体、奇跡なんだ。祖父母の野菜やお米が食べられる日常のありがたさを胸にきざみながら、口に入れたお米をかみしめた。ふんわりとやさしい甘みが口の中に広がった。その瞬間、思わず笑みがこぼれた。

また来年この場所に来て、大好きな祖父母の笑顔と、今と変わらないきれいな田んぼと畑を見たい。そして、祖母が作った世界一お

いしいおにぎりを食べたい。

これからも「元気の証の定期便」が届くとを心から楽しみにしている。



笑顔の連鎖

東陽中学校 二年

下元 しももと 彩加 あやか

私の両親は共働きだ。父は香川県へ毎日電車で通勤しており、帰りは少し遅い。母は車通勤だが正社員で働いている。仕事以外にも私の兄の弁当を作ったり、洗い物や洗濯、掃除など毎日忙しそうにしている。

とは言っても、私も負けないくらい忙しく過ごしている。学校だけでなく、部活、塾、バトミントンクラブなど、家に帰るのは夜の十時頃になることも多い。家に帰ったらクタクタだ。そこから夕食を食べて、お風呂に入るとすぐに十二時になってしまう。宿題とか録画したドラマなどを見ることは忙しい合間をぬってなんとかやっている。

そんなある日、母から「少しでもいいから何か手伝ってほしい」と言われた。しかし、自分のことだけでも時間が足りないのに、母の手伝いをする余裕なんて全くないと思った。それが表情に出ていたのか、母の表情が曇ってきた。母が忙しいのはわかっているつもり

ではあるが、私も忙しくしているのは理解してほしいと思った。その気持ちが先行して、重い腰があげられない。リビングの空気が張り詰めてきたタイミングで、父から

「ちよつとしたことでもいいから気持ちよく手伝ってあげなさい。」

と言われた。全く納得できなかったが、父は怒ったら怖いので、ひとまず布団敷きを手伝うことにした。時間にして五分程度だった。

やってみればあつという間だったが、母がニツコリとして

「ありがとう。」

と言ってくれたのが印象的だった。そして手伝いをした私に、父は

「お疲れさん。」

と言って、足のマッサージをしてくれた。部活で足に疲れがたまっていたので、私もニツコリしてしまった。そして、私の表情を見て、父もニツコリとしていた。

とても不思議な感覚だった。普段はみんな自分のやるべきことに追われて一生懸命になっただけで、とても余裕なんかないと思っていた。けれど、一旦立ち止まって、ほかの人が

何か困っていることがないか声かけをしてみる。困っているようであれば自発的に手伝いをしてみる。そうすることで、家族みんなのコミュニケーションがしつかりとれるようになっていった。そして、みんな笑顔になることができた。

以前、父が私にしてくれた話を思い出した。父は銀行でお客さん向けの仕事をしているのだが、お客さんに喜んでもらうためには、まずは自分自身が幸せな気持ちでなければならぬ。そうでなければ人を喜ばせたり、幸せにしたりすることはできない。だからそのための努力をしようと言っていた。

幸せな気持ちになるための努力、その時は言っている意味すらよくわからなかったが、今は少しわかるような気がする。何も考えなければ、母の手伝いもせずに自分のことだけをやって寝る。今まで当たり前になっていたことだけれど、いざ手伝いをしてみると、ちよつとしたことなのに、みんなも喜んでくれるし、何より自分自身の気持ちがとても良い。だから、また、手伝いをしたいと強く思えるようになった。

このことは、家庭内にとどまらず、学校や地域社会での生活においても一緒のことだと思っただ。学校などで積極的に物事に取り組んでいくことは、私の性格からは、やや恥ずかしさもあるが、それでもいろいろと前向きに取り組んでいこうと思っている。私自身から積極的に困っている人に声かけをして、少しのことだけでも力になって、その人にニッコリ笑顔になってもらえるようにしたい。そして、そのニッコリしてくれた人の笑顔が、またほかの人にも繋がっていつてくれたらとても素敵な事だと思う。

「私発」の笑顔が広く連鎖していくように、まずは自分自身が幸せな気持ちにならなくてはならない。何も難しいことではなかった。今日も家に帰ったら、まずは布団を敷くことから始めようと思う。



逆境の中で咲く花のように

西中学校 三年

妹尾 心福せのお こころね

夏休みのある日、母や姉たちと電車に乗り
買い物に出掛けました。いつもは母の車で移
動することがほとんどでしたが、久しぶりの
電車は何だか新鮮でした。乗って数分たった
頃、母が、突然立ち上がり、入り口のドアの
方へ近寄っていききました。「どうしたんだろ
う」と思った矢先、ドアが開いて私の目に入
ったのは、赤ちゃんを抱っこして、バギーカ
ーを持ったお母さんでした。すると、兄が母
に気づき、母がとっさに持つてあげようとし
ていたバギーカーを車内へ持ち運び、空いて
る席へ誘導してあげました。赤ちゃんを抱つ
こしたお母さんが座つたのを確認すると、ニ
ッコしながら母と兄が戻ってきました。何
だか私まで嬉しくなってしまうましたが、ふ
と

「ママ、バギーカー運べると思ったん？」
と聞きました。

私の母は、脳性麻痺で、生まれつき右手足

が不自由な一級障がい者です。歩行の時は、
杖を使うことが多くりましたが、工夫しな
がら、ほとんどの事は、左手だけでこなして
います。

しかし、当然、難しいこともいろいろあり
ます。だから、杖を持った母が、バギーカー
を運ぶには無理があるのではと思ったのです。
結局、状況を察した兄が手助けする形にな
ったのですが、私は、いつも周りの人の事を
最優先に考える、そんな母が大好きです。

ハンディを持ちながら、誰にも頼ることな
く何でもこなし、家族のために働き、子育て
しながら家事をする立派な母です。

母の偉大さを実感したのは、四年前、父の
病気が見つかったときでした。ガンであるこ
とが分かったときには、ステージ四の末期で
した。

身体中に転移したガンは、普段の生活に支
障をきたすようになり、母の手助けが必要に
なりました。

通院時には手足の不自由な母が父の車椅子
を車に積み下ろし、身体の高い父を車椅子
に乗せ、押して歩く、想像しただけで大変な

のは私にも分かりました。

しかし、母は、父や私たちの前では辛そう
な顔は一切見せず、むしろ明るく前向きな姿
にすごいなあと思っていました。

もちろん父もそんな母がそばに居たから病
気で辛くても安心して過ごせていたんだと思
います。闘病中、父は「本当は、パパがママ
の手足になって歳をとつても助けてあげよう
と思っていたのに、ごめんね。」と言っていた
のを覚えています。どんな状況でもお互い支
え合う思いやりを感じ、本当に両親のもとに
生まれてきて良かったと思いました。

私は、以前一度、母に「ママは、手足が不
自由で大変じゃろ？自分を嫌いになつたりし
ないん？」と聞いたことがあります。すると
母は、にっこり笑つて、「大変？そりゃあ、み
んなから見たら右手も使えんし、走る事も出
来んしかわいそうと思うんかもしれんけど、
気がついたらこういう状況だし、工夫のしよ
うで意外と何とかなるもんなんよ。この身体
は個性かな。顔や性格がみんな、違うのと一
緒だよ。だって、友達だっているし、就職も
して、おまけにこんな身体でもパパは結婚し

てくれてさ、こんな愛おしい子供たち三人に
囲まれて幸せだよ。」と言いました。逆境で
も乗り越えていこうと前向きに、そして常に
明るくいる姿は、父の看病をし、父が亡くな
るまでずっと変わりませんでした。私たち兄
妹は、そんな母をずっと見てきて、感じてい
ることは三人一緒だったと思います。姉が、

「ママは偉いね。」
と言うと、

「ママな、幼い頃からいつも誰かに支えられ
てきたんよ。こうして明るくいられるのは
周りの人のおかげ。だからこれだけは、心
掛けようと思ってることがあつてな。どん
な時も笑顔でいること、周りの人に感謝す
ること、これを忘れなければ自然と多くの
人がいてくれるんよ。色んな人がママに声
を掛けてくれたり、助けてくれたり、本
当にありがたい。だから、ママが助けても
らったように、ママも誰かの役に立ちたい。
皆を笑顔にしたい。」

と言いました。私が好きなウォルトディズニ
ーが言った言葉に「逆境の中で咲く花は、ど
の花よりも貴重で美しい」というものがあり

ます。まさに、母にピッタリだと思います。

大好きな母が、これからも明るくポジティ
ブにいられるように家族で支えあつていきた
いと思います。そして、私も、誰かの役に立
てるように、思いやりの気持ちを持ち、笑顔
と周りの人への感謝の心を忘れずに、明るい
未来を築いて、みんながいつも、笑顔でいら
れるような世の中にしていきたいと思います。



◆小学生の部◆

かぞくのじまん

第四福田小学校 一年

北條 杏

わたしは、おかあさんのことがだいすきです。かぞくみんなもだいすきです。いつもかわいくて、やさしくて、あかるいからです。

まいにち、おいしいごはんをつくってくれてうれしいです。あさは、やさしいこえでおこしてくれます。まだぬむいときでも、こちよこちよしてくれたり、インコのモノマネでおこそうしてくれます。とてもおだやかなきもちになります。

わたしとおにいちゃんがいえの中で大ごえでふざけていると、よくおこられます。でもおかあさんのおこりかたは、すこしかわつていとおもいます。わたしやおにいちゃんよりもへんでおもしろいかおをして、いえの中をはしりまわつておいかけきます。そして

つかまえられてしんげんにしかられます。すごくこわくて、はんせいします。かなしいときや、なみだがでるときは、いつもぎゅつとつよくだきしめてくれます。

おかあさんは、ときどきせわしくて、おつちよこちよいなときもあります。くるまのるとき、カギをもつていなかったり、しょうがをするとき、じぶんのをよくすりまします。へたくそなダンスをおどっていたり、かしがおかしいうたをうたつていたり、ふざけているときもあります。

まいあさ、がつこうへいくときの、「いつてらっしやい。」

や、いえにかえつてきたときの、「おかえり。」

の、あかるいこえがだいすきです。

「ママがえがおでおだやかだと、かぞくみんながしあわせだよね。」

と、よくおとうさんがいつてます。こんなすてきなおかあさんがかぞくのじまんです。こんなかぞくでうれしいです。まいにちがともあかるいです。



わたしのおとうさん

船穂小学校 一年

浅野 姫依

わたしは、おとうさんのことを「とうと」とよんでいきます。

とうとのすぎなてればは、「さらめし」です。いろんなひとのおべんとうをしようかいするばんぐみです。でもとちゅうでいつもねていきます。それをみてわたしとかあかは、あだなをつけました。あだなは、「さらめしねるこ」です。おべんとうおうこくで、いっぱいおべんとうをたべているゆめをみているのかなとおもいます。

とうとは、しゅつちようでほとんどいないけど、いえにいるときはいっぱいあそんでくれます。なつやすみは、ふうるやはなびをしました。ふうるでビーチボールであそんだのがたのしかったです。とつてもあついなかで、とうとがやきそばをやいてくれました。とつてもおいしかったです。

よるは、わたしよりねるのがはやいです。一ふんでねています。ねごとでもわたしのこ

とを

「きいだけ、よごれとつたらいやじゃろ。きれいにせんと。」

といつていました。いびきもおおきくてドリルみたいでうるさいです。おもしろすぎてわたしとかあかは、わらいがとまらずねれません。

そういうとうとがだいすきです。

またいつか、かぞくりよこうにいきたいです。とうとのおもしろいがたをもつともつとみて、たくさんわらいたいです。いっしょにたのしいことやおもしろいことをしてあそびたいです。



わたしのじいじ

天城小学校 二年

かなまる
金丸 愛理
あいり

わたしのじいじは、とてもやさしくて、元気であかるい人です。でも、それだけではありません。いえで、おもちゃとか、ものがこわれると、なおしてくれて、こうだといいなと思つたら、つくつたり、なおしたりできてさらに、おこめやおやさいまでつくつちやうすじいじです。

なんでもできる、はたらきもののじいじに、インタビューをしました。

あきの六じにおきて、よるの十じにねる。大すきなたべものは、おすしと魚。のみものは、ビール。これは、わたしのよそう通りでした。今までつくつたものの中でけつきくだったものは、もみすりをばあばと二人でできるように、そうちのしくみを、かいぞうしたことです。もみすりきのしくみを教えてくださいけれど、むずかしくてぜんぜん分かりませんでした。でも、もみすりは、いねからとつただつこくまいという、からがついたお

こめのからをとつて、げんまいというおこめにすることだと分かりました。

なんで、なんでもつくつたり、なおせるようになったのか。子どものときから、おもちゃを分かいたり、プラモデルをつくつて、ものづくりを知ることが、すきだったそうです。今でも、わたしのゲームをさわっていても、あたらしいことを、知ろうとしています。

なんでも教えてくれて、知らないことも、いつしよに考えてくれる、じまんのじいじになつたのは、じいじが子どものころから、知るのがすきで、すきなことをやめずに、たくさんがんばったから、大人になって、やくに立っているんだと思いました。大人になって、やくに立つか分からないけど、わたしも、すきなことをしつかりがんばって、じいじみたいな、たくさんがんばれる大人になりたいです。



わたしの大切なかぞく

玉島小学校 二年

うえの
上野 あかね
朱音

わたしは、大きくなったらなりたいゆめが、一つあります。それは、おもしろい先生です。なりたいたいわけは、一ばん下の妹のびょう気をなおしてあげたいからです。

妹は長く入んして、おかあさんはつきそいでいます。妹が元気だったときは、かぞくと公園へ行ってたのしかったです。妹の手を上からもつておしてあげました。うれしそうにわらっていました。わたしは、おもしろい先生になって妹を、もとにもどしてあげたいです。ほかに、びょうきでくるしんでいる人をたすけてあげるやさしいおもしろい先生になりたいです。

今、わたしは、おとうさんと上の妹と三人ぐらしをしています。おかあさんがいなくてさみしいときもあります。時どきは、おじいちゃんのおえへとまりに行つてるすばんをしています。手つだいもします。あさごはんの目玉やきづくり、そのあと風ろそうじ、ベッ

ドのふとんをなおすと、おばあちゃんが、「ありがとう。」

と言つてよろこんでくれます。わたしは、もつと手つだいをしようと思つています。

おとうさんはおしごと、おかあさんは妹のつきそい、わたしは二ばんめの妹と、なかよくあそんでいます。みんながんばっています。

妹がたいいんできたなら、妹がすきなあまいたまごやきをつくつてあげたいです。ほかにもおんぶしてあげたいです。そして、かぞくそろつてレストランでごちそうをたべたいです。わたしは、ゆめにむかつてがんばりたいです。



家でいでのわたしの仕事

第一福田小学校 三年

なかだ
中田 さくら

家でいでのわたしの仕事は、毎日何か自分にできる家族のお手伝いをすることです。

三年生になって自分でできるお手つだいのしゅるいもふえてどんどんお手つだいが楽しくなってきました。

一番さいしょにおぼえた仕事は、せんたくをたたむことです。さいしょにせんたくをたたんだ時、たたみ方がいろいろあつてお母さんに教えてもらいました。Tシャツのたたみ方がさいしょむずかしくて、なかなかうまくそろえられなくてたいへんだつたけど、お母さんに教わつた通りに何どもせんたくをたたんでいくと、だんだんじょうずになつていき、おかあさんに、「わあすごい。たためるようになったじゃん。」と言われてとてもうれしかつたです。

次におぼえた仕事は、ごはん前の用意をすることです。お母さんといっしょに用意をします。さいしょは、ごはんをつぐ時に、お母

さんとお父さんのごはんのりようが分からなくて、何回も、「ごはんのりようどれくらい？」と聞いているばかりだつたけど何回か入れてお手つだいでいるうちにお母さんとお父さんのごはんのりようが分かるようになりました。

さいきんおぼえた仕事は、しよつきあらいとせんたくをまわす事です。しよつきあらいは、せんざいをつかうのでガラスなどをあらう時にすべつてガラスをわりそうで、むずかしいです。せんざいをのこさないようにきれいにがすのも大事です。はじめてしよつきあらいをした時それに気をつけてあわてずにあらつたら、上手にできたのでお母さんに、「もうしよつきあらいできるなんてすごいね。ありがとう。すぐたすかる。」とお母さんがとてもよろこんでくれました。

わたしも、よろこんでもらえて、出来ることがふえて、少し大人になつた気持ちがつてわくわくうれしくなりました。

せんたくを回す仕事はわたしが前からやりたくてさいきんお母さんにたのんで、教えてもらいました。せんざいをせんたくきに入れ

る時、ドキドキもするしわくわくもします。せんざいをはかる時は、わくわくして、せんたくきに入れる時は、ドキドキします。じゅうなんざいはとてもいいにおいがして、せんたくきが回りはじめるとほつとして、きれいにせんたく出来るかな。と後でほすのも楽しみになります。

お手つだいをするときれいになつて気持ちよかつたり、家族にもありがとうとよろこんでもらえて気持ちがいいので、これからもお手伝いをつづけて、わたしも自分の出来る事でいっぱい家族のやくにたてたらいいなと思つています。



家族みんなでこんだて会ぎ

長尾小学校 三年

まつした
あやね
松下 絢音

わたしの家では、一週間のこんだてを家族みんなで考えています。なぜ考えているのかというと、お母さんが仕事から帰ってくるのがおそく、帰ってきてからこんだてを考えて作るのが大へんだからです。

土曜日か日曜日のどちらかで家族で食べた物を考えて、一週間のこんだてを立てます。えいよのバランスを考えていろいろ話し合います。わたしは自分の好きなメニューをよく考えていあんします。どういようおかずの組み合わせにするか考えるのも楽しいです。

大へんな事もあります。毎週考えないといけない事と、なかなかメニューが思いうかばない時もある事です。また、肉料理と魚料理のバランスを考えてこんだてを作っています。肉を使った料理の方が思いうかびやすく出来あがったこんだてを見ると、肉料理の方が多く魚料理にへんこうする事もあります。

一週間のこんだてが出来上がったら、次は

一つ一つのメニューに使うぎいりようをメモします。メモする時にもちよつとしたわぎがあります。それは、野菜、肉・魚、その他に分けて書く事です。なぜ三つに分けて書いているのかというと、一週間分まとめてぎいりようを買うのでりようも多く、時間がかかるので少しでもスムーズに買物物がすませられるようにしているからです。

こんだて会ぎを通して、わたしも少しずつりよう理にきよう味をもつてきました。りよう理の本を買つてもらつたり、お母さんに作り方を教えてもらつたり、手伝いもしています。また、こんだての中に作りたいメニューを入れたりもしています。今は、たまごやきが作れるようになりたいと思っています。

りよう理にきよう味をもつたから分かつた事もあります。それは、毎日りよう理をする事は大へんだという事です。ごはん、おかず、しるをいどに作らないといけなしいし、仕事で帰りがおそくなつても、ぜつたいに作らないといけなしいので、とても大へんだと思ひました。お母さんは毎日、こんなに大へんな事をしていて、すごいなと思ひました。少しでもお母さんを楽にしてあげられるように、手伝

つていきたいと思ひます。そして、どんなメニューも作れるようになりたいです。りよう理にきよう味をもたせてくれた、こんだて会ぎ。なかなかメニューが思いうかばない時もあるけど、家族みんなで集まつてなやむ時間も大切にして、これからもつづけていききたいと思ひます。



ぼくの家が明るい理由

中庄小学校 四年

まつもと
松本 一楓
いちか

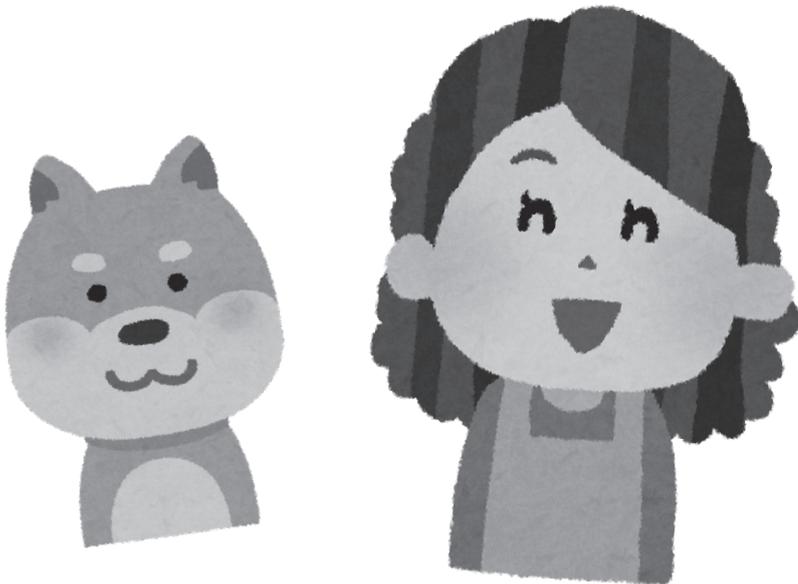
ぼくの家はとても明るい家だと思う。その理由はぼくのお母さんにある。

お母さんのせいはいつもニコニコ笑顔で人の悪口を言わない。人の良い所を見つめるのがとくいだと思う。ぼくの良い所があると思うとすぐ伝えてくれて、たくさんほめてくれる。そしてとてもやさしい人だと思う。自分のことは後回しでいつも家族のことをゆう先してくれている。それでもイライラすることもなくずっと笑顔だから、家の中の空気が悪くなく、ついでに笑顔だから、家の中のムードメーカーでお母さんがいる所にぼくもお父さんも犬も集まってくる。お母さんの話はいつもおもしろくて、みんなと話せるような話題をたくさんしてくれる。コミュニケーションがとく意なお母さんのとくぎだと、ぼくは思う。だから何かなやみごとや相談があれば、ぼくはいつもお母さんに話す。いつも笑って「そんなこと大したことじゃないよー。」

と前向きなアドバイスをくれるので、なやみもすつかりふきとんでぼくを笑顔にしてくれる。家に犬とハムスターがいるが、一番お母さんになついている。犬はお母さんにべつたりでとても楽しそうに見えるし、ハムスターも一番初めにだっこできたのはお母さんで、ぼくがお世話をしているのにお母さんがよばないと小屋から出てこない。動物までお母さんの明るさが伝わっているなんてびっくりだ。うちの家族はお母さんが大好きだから、お母さんが笑っているとみんなつられて笑ってしまふし、いつも無口なお父さんもお母さんの前ではすぐく楽しそうでも笑顔だ。

そんな家の中で育ってきたぼくだから、自分について考えることがよくある。それはしように来ぼくに家族ができたときに、自分の家族のような家庭をもてたらいいなと思うことだ。毎日たくさん笑ってたくさん話して、家族みんなが家に帰りたくなるようなそんな家庭があると幸せだと思ったからだ。そのためにはぼく自身が家で体けんしていることを人にしてあげられるようになることが大切だと思う。

毎日生活をしていると大変なことやしんどいこと、つかれる日もある。だけどぼくもお母さんのようにいつもニコニコ笑顔でいることを心がけて生活していこうと思った。それが明るい家庭づくりだと考える。



目に見えない愛じょうに支えられて

玉島小学校 四年

石井 彩馨

「あれ、今年のおぼんは静かだなあ。」

去年までは、にぎやかだったおぼんが、一だんと静かに感じました。いとこや親せきが来ていないからか、あまり気の乗らないおぼん休みになりました。コロナ禍なのでどこへも行けず、家でのプールや花火を楽しみました。プールや花火のじゅんぴは、全部おじいちゃんがやってくれました。

わたしには、いっしょに住んでいる日本のおじいちゃん、おばあちゃんと、中国に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんがいま。コロナ禍になってから一度も中国へ行けていないので、中国のおじいちゃん、おばあちゃんには二年半会えていません。そして中国のおばあちゃんは、会えないまま今年病気で亡くなり、二度と会えない人になってしまいました。

おばあちゃんは、わたしのことをとっても大切にしてくれていました。体に少しい変が

出たら、すぐ病院につれていってくれたり、

たいしょくした後わたしのためにピアノを練習して、次に会えた時にはいっしょにひいて遊んだりしようと思ってくれていたようです。

おばあちゃんを思い出すと、日本と中国でテレビ電話をする時は、いつもうれしそう。何回も名前をよんで話しかけてくれました。

そして中国の歌を歌って教えてくれました。ずっと元気な様子だったので病気がつたなんて本当に信じられません。コロナ禍なので、

おそう式にさえ行くことができず、とつぜんのお別れで中国のおじいちゃんはとても悲しんでいるようですが、わたしと妹のために買ってくれた自転車と三輪車を毎日きれいにふいてくれていると聞きました。

自分では気づかなかつたけど、わたしは言葉や国をこえた目に見えない愛じょうに支えられて生きているのだなと思いました。人を大切に作る気持ちに、きよりは関係ないんだと思いました。

今年のおぼんは静かでしたが、ご先ぞ様や、中国のおばあちゃんに、わたしが今、元気にくらしていることに感しゃし、これからも見守ってくださいと、心の中でおいのりしまし

た。

コロナ禍の今、なかなか外に出かけられず、はなれてくらしている家族となかなか会えない日々が続いていると思いますが、コロナにまけずにがんばろうと思いましたが、今日もわたしの家族は、元気にすごしています。



家庭の中のぼくの仕事

葦高小学校 五年

糸島 いとしま
宏真 ひろま

ぼくの、家庭での仕事は、主にゴミすてです。他の三人は、二つ以上、仕事があるのに、自分一人だけ、仕事が一つで自分は家庭の役に立っているのか、不安に思うことがあります。

このゴミすての仕事は、四年生のころからはじめました。元々はお父さんがやっていましたが、朝あまり時間がなくなつたので、ぼくがするようになりしました。でもぼくは、自分からお手伝いをしようとしません。それはなぜかという、面どうくさいからです。しようと思う心があつても、体が動きません。言われたらするけど、自分からはしません。でも、ある一つの言葉でぼくの気持ちはかわりました。その言葉とは

「お手伝いをしてくれるだけで、みんなが楽になるぞ。」
とお父さんが言ってくれました。その言葉を聞いたぼくは、家族の仕事をしているところ

を思いうかべました。お母さんはごはんを作るところ。お父さんはふろそうじをしているところ。お兄ちゃんはせんたくものを外からいれるところ。それを思いうかべることであることに気がきました。それは、それぞれが、ちがう役わりがあるから、明るい家庭があり、生きていける。そして家族みんなが笑顔になれることに、気がきました。自分が仕事をすること、みんなが笑顔になると思うと、あまり面どうくさいと思わなくなり、たまに進んで行動できるようになりました。あの一つの言葉で、家庭への考え方が大きくかわりました。自分の仕事をしようと思うのはかんたんだが、行動することはむずかしい。でも、家族のことを思つて働こうとする気持ちはとつても大事です。自分の仕事をするにはあたりまえ。でも、そのあたりまえのことをあたりまえにするつてむずかしい。しかし、そのあたりまえのことをあたりまえにすることができている家族つてすごい。そう思うと、

自分も家族のみんなみたいに、すごいことをしたくなる。みんなががんばっているから、自分も自分の仕事を、がんばっている。家

族のためだと思うと、進んで行動できるようになれるときがあります。

今はまだ、自分の仕事の一つですが、今から他の人の仕事を、自分の仕事にして、自分の仕事をふやし、みんなの仕事へらし、みんなが楽できて自分にできる仕事をたくさんにし、明るい家庭をつくり、みんな仕事があり助け合いそして、全員があたりまえのことを、あたりまえにできる、明るい生活をおくつていきたいです。



がんばる家族

帯江小学校 五年

藤原 かじわら ひなた

わたしの家族は、お母さん、おじいちゃん
おばあちゃんとわたしの四人家族です。わた
しのお母さんはわたしが小さいころからずつ
と働いていたけど、あるとき

「かんごしになる！」

と言いだして、そこから勉強を始め、本当に
会社をやめてかんご学校に入学しました。現
在かんご学校の二年生です。お母さんは家で
は毎日ご飯を作ってくれたり、夜おそくまで
学校の宿題や勉強をしていて、とても大変そ
うです。テストがたくさんあるそうで、テス
ト前にはよく仲間とオンラインをつないで勉
強会もしています。お母さんは元々勉強が苦
手だと言っていたけど、弱音を吐かずに前向
きにがんばっています。一方おじいちゃん
とおばあちゃんはそれぞれ働きながら、洗たく
物や洗い物などお母さんと協力しながら家事
をしていています。おじいちゃんの仕事は
車の整備で、こしが痛いと言いながらも毎

日朝から夜までがんばっています。おばあち
ゃんは魚のにおいが苦手だと言っていたけど
おすし屋さんの皿洗いの仕事をがんばってい
ます。さらに、家は今年から地いきの役員に
選ばれて、おじいちゃんとおばあちゃんとは
とても忙しそうにしています。

そんな中、わたしは最近体調を崩して腹痛
が続き、小学校を休みがちになってしまいま
した。それでもお母さんやおじいちゃん、お
ばあちゃんはわたしを心配してお腹にやさし
いご飯を考えて作ってくれたり、病院に連れ
て行ってくれたり、やさしい言葉をかけてく
れたりしました。休みの日には遊びにも連れ
て行ってくれて、わたしはとてもうれしかつ
たです。また、みんな忙しいのにすごいなと
思いました。そんな家族のすがたを見て、わ
たしも早く元気になって、休まず学校に行き、
勉強をがんばりたいと思いました。また、わ
たしはしょう来、お母さんと一緒にかんごし
になるのが夢です。お母さんのすがたを見て
いるとかんごしになるためにはたくさん勉強
が必要だということが分かったので、今から
コツコツがんばろうと思います。空いた時間
には家のお手伝いもして、家族の力になろう

と思います。しょう来かんごしになれば、
家族を旅行に連れて行ってあげたいです。ま
た、やさしいかんごしになって、病気で苦し
む人々をいやしたり、子供がきたらお母さ
んみたいながんばるお母さんになりたいと思
っています。



私のお父さん

西阿知小学校 六年

小西^{こにし} 花歩^{かほ}

私のお父さんは、学校で働いています。

家でのお父さんは、お母さんにたのまれていたことを忘れていたりするおうちよちよいなお父さんです。そんなにおもしろくないことを私に言ってきたり、ちょっかひを出してきたりするので正直たまにめんどくさいと思うこともあります。

私は、家でのお父さんしか知りません。

仕事をしているお父さんの様子を見たことがあります。そんな時、近所のお友達がけんかをしてるところを見かけました。私とお父さんはしばらく様子を見ていましたが、一人の子が石を投げて、乱暴なけんかにだんだんなつていききました。私は怖くなって、どうしたらいいのか分からなくなりました。

すると、となりにいたおとうさんが体を乗り出し、けんかを止めに入っていました。私はドキドキしたけれど、しばらくみんな

様子を見ていました。お父さんは、ただ止めに入るのではなく、それぞれ二人の話をよく聞いて、仲直りさせていました。いつも家であざけたお父さんと全然違って、『先生』という顔つきでした。家では見ることができないお父さんの姿を見ることができて、うれしかったし、ほこらしかったです。

今まで私の入学式や運動会などでも、お父さんの仕事がある時は、来てもらえませんでした。正直、その時の私は、来てほしかったし、なんで来てくれないのだろうと思っていました。お父さんは仕事が休みの日でも学校で何かあればとんでいきます。いつでも生徒のことを一生けん命に考えているお父さんのことをすごいなと思いました。

お父さんに今の仕事のやりがい聞いてみたことがあります。

まず一つ目は、「生徒たちの成長が見えること」だそうです。入学時に比べて卒業時の生徒たちの大きく成長した姿に喜びを感じると言っていました。

二つ目は、「生徒たちから年賀状がくること」だそうです。年賀状をもらうことで、生

徒たちの近況を知ることができ、「自分が伝えてきたことが生徒たちに伝わっているんだな」と実感することもできて、とてもうれしいそうです。そう言つて私に教えてくれたお父さんはとてもやさしい顔をしていました。

私は将来、お父さんみたいに自分にほこりややりがいを持てる仕事に就きたいです。

将来、自分が何に向いているのか、何がやりたいのか、まだはつきりとは決まっています。今自分にできることを精一杯頑張つて自分の将来を広げていきたいです。



スマイル・スマイル

琴浦西小学校 六年

石川 いしかわ
逞馬 たくま

ぼくには、弟と妹がいます。

「弟の前に、もう一人弟ができるはずだったんだよ。」

と以前、お父さんやお母さんから聞いていました。

それは、僕が二才一ヶ月頃の話です。まだ小さかった僕は、その頃の事を覚えていないので、お父さんやお母さんから聞いた話になります。

僕は、お父さん、お母さん両方のおじいやんおばあちゃんの初孫で、とてもかわいられて、大事にされて育ちました。おじいやんおばあちゃんからも

「もうすぐお兄ちゃんになるんだよ。」

とよく言われていたため、しつかりしなきゃと思ったからなのか、なんでも自分でやってみる！とお兄ちゃんになる準備もできていたみたいです。もう少しで、お兄ちゃんになれるんだと楽しみにしていたのですが…。

とあるクリスマスの日、じんつうがあり、

産婦人科に行ったが、すぐに救急車で、大きな病院に運ばれるお母さんを見て、僕は泣きそうになっていたみたいです。結局赤ちゃんは、お腹の中で、亡くなってしまいました。原因は不明だったそうです。おじいやんお

ばあちゃん伯母も、病室に駆けつけてくれて皆悲しくて泣いている中、僕一人「お腹すいた。」「ジュース飲みたい。」「公園に行きたい。」と、いつもの行動で。皆は逆にそのふつうさが今は、救われるね。と話していた様です。そんな僕をおばあちゃんが、散歩につれて行ってくれて、売店でおかしやジュースやおもちゃを買ってくれ、皆のいる病室に戻った時、僕は

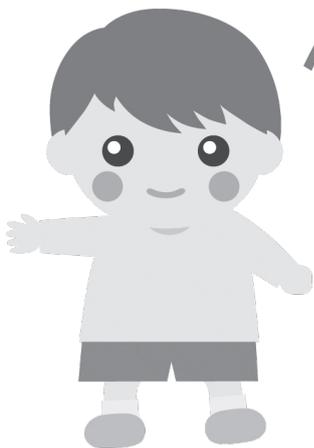
「スマイル・スマイル。」

と皆の前で言ったみたいです。今まで「スマイル」なんて言葉を僕から聞いた事がなかったお父さんとお母さんは、驚いて二人でハッと顔を見合わせ笑顔が少し戻ったそうです。悲しすぎて泣く事しか出来なかった時だから、「スマイル・スマイル。」の言葉にすぐ助けられたなく。その一言でめちやくちや元気に

なれたんだよ。ありがとうね。とお母さん。くわしく話すと思いだして泣いちゃいそうだから、今まで話せなかったけれど、もうあなたも六年生だから話しくね！。とお母さんは、少し遠くを見ながら僕に話してくれました。

そんな僕も、弟と妹ができ、今では本当のお兄ちゃんになりました。ワクワクしてお兄ちゃん業もなかなかつらいもので…。弟や妹がいいなあと思う時も多々あるけれど、「スマイル・スマイル。」の合言葉を胸に、お兄ちゃん業を楽しみたいです。

我が家の合言葉は、「スマイル・スマイル。」



スマイル
スマイル

◆中学生の部◆

僕の弟

玉島北中学校 一年

まがり
眞賀里 はると
陽人

僕には七つ年の離れた五歳の弟がいる。今は年長で、来年小学生になる。とてもおしゃべりで生意気で、時々本気で腹が立つことがある。『どっかいけ』と思うこともあるが、いないと家の中が静かでもの足りない感じがして、なんだかすごくさびしい。

そんな僕の弟は、五年前の一月十一日、千三十八グラムで産まれてきた。本当は四月一日に産まれる予定だったが、約三カ月も早く産まれてきた。母が二十七週で破水してしまい、出産予定だった病院から救急車で遠くの病院まで運ばれた。絶対安静でなんとか二十八週になるまでねばったそうだが、二十八週と三日で産まれてしまった。後に母から聞いたが、逆子だったため帝王切開になり、陣痛もきていたため手術の準備をしている間に呼吸が弱まっていて危険な状態だったようだ。

そして、産まれる前お医者さんに呼ばれ、今産まれると体のいろいろな機能が未熟な状態なので、障がいを持って産まれてくる可能性が高いという話をされ、父と母は覚悟を決めていたらしい。

弟は小さかったから、二カ月程入院していた。母は退院しても毎日病院に母乳を届けに行っていた。僕も父や兄と一緒に何度か病院に会いに行くことができたけど、いつも下向きに丸まっていたから、赤ちゃんというよりぬいぐるみみたいで、弟という実感がわかなかつた。本当に小さくて、たくさんのチューブや機械のようなものをつけられていて、僕は本当に退院することができるのか、心配でたまらなかつた。

でも、弟の生命力はすごかつた。体は小さいのに、母乳とミルクをごくごく飲み、看護師さんやお医者さんがびっくりするくらいの成長スピードだったらしい。ある程度体重が増えると、少しの間体につけてあるチューブを外して抱っこできたり、お風呂に入ったりすることもできた。風呂といっても小さなたらいのようなものだったが、父と母に抱えら

れ、お湯をかけてもらっている弟はとても気持ちよさそうに見えて、なんだか嬉しかった。そしてしばらくたったある日、僕が小学校から帰ってくると弟がいた。父と母は僕と兄を驚かせようと、退院できる日を内緒にしていたようだった。小さなベッドに寝かされている弟はものすごくかわいくて、僕はすぐに弟のそばに行き、しばらく離れられなかつた。最初に病院で見た姿とは違って、ほっぺがぷくぷくしていて、上向きで手足をばたばたと元気に動かしていた。その時やっと、僕の中で弟ができたんだという気持ちと、兄になつたんだという思いがうまれた。そして兄として、弟のことを守っていこうと心に誓つた。

それから僕は、弟の世話をすすんでするようになった。ほ乳びんでミルクをあげたり、泣いていたら抱っこをして、寝かせることもできるようになった。早く産まれたので、おすわりするのもハイハイするのも歩くのも、標準より遅かつたようだけど、それも時期がくればできるようになつたし、障がいが残つてしまふかもしれないなんて言われたのがうそのように、弟は何の問題もなくすくすく大

きくなつていった。あんなに小さかったのに、
たくさんの機械やチューブにつながっていた
のに、弟の生命力はすごいと僕は思う。

「ママー、はるがたたいてきたー。」

今日も弟は僕のせいにする。本当にずるい。
口も達者で生意気でいららすることも多い。
でも父や母に怒られたり、転んだりして泣い
た時、

「はるー」

と僕のところに来て、僕が抱っこするとギョ
ッと僕の背中をつかむ。そんな時、僕は弟が
退院してきたときに弟の顔を見て心に誓った
ことを思い出すんだ。

たった一人の弟のことを、兄としてこれか
らも守っていこう。



我が家の変化

真備東中学校 一年

田辺^{たなべ} 桜咲心^{さくら}

私は、父と母と三つ下の妹の四人家族だ。

ある日、私の家は特殊かもしれないと思った。それは、どういうことかというところ、私の父は、私が生まれる少し前からずっと、週末にしか帰ってこない仕事になったからだ。月曜日の朝出張に出て、金曜日の夜に帰ってくる。なので私が赤ちゃんの時には、父が一週間ぶりに帰ってくるたびに私の成長に驚いていたらしい。赤ちゃんである私自身も父の顔をじっと見つめて「この人誰だろう？」という顔をしていたと母から聞いた事がある。

私が幼稚園のときには単身赴任で三年ほど別々に暮らしていた時期もあった。なので、父とはあまり長い期間一緒に住んだことがなく、そんな日常が当たり前だった。

父と母は毎日電話で話をするが、途中私に「かわる？」

と聞かれても首を振るといのが私のいつもで、それはなぜかと聞かれても何を話したら

いいのかよく分からないと思っていたからだ。妹は「お土産買ってきて」とか「いつ帰ってくるの？」とか、どうでもいいことを楽しんで話しているが私はそれも少し苦手だった。でも、さみしいと思うこともあった。長い休みなどには家族で旅行に行ったりして家族との時間を大切にすごしていた。でも、長い時間一緒に過ごすといつもと違う変な感じもした。

生まれてから一番長く父と一緒に過ごしたのは四年前の水害の時だった。私の家は被害を免れたが、祖父母の家と祖父の会社が被害にあい、めちゃくちゃになった。その時も父は出張に出っていたが新幹線が動かず何日も足止めされ、真備町のニュースをずっとテレビで見るとかなかったという。父がいない状態で祖父母と母と妹の五人で避難した。とても不安だったことを覚えている。そして父は、色々な人に助けってもらいながら何とか家に帰ってきた。顔を見た時は本当にほっとした。その水害の片づけのために父は会社を二週間休んでくれた。それが父と一緒に過ごした一番長い時間となった。

でも、このコロナ禍で状況が次第に変化していった。初めの頃は、感染拡大地域を避けて出張していたがそのうちに出張に行けない状態になり、激減した。ただ、出張に出る日数は減ったが感染拡大地域への出張もあったので、父が感染したらどうしようと本当に不安で不安でたまらなかった。特に水害後から一緒に住んでいる高齢で持病がある祖父に感染してしまうと大変。とみんなが不安に思っていた。そのため、みんなが不安に思っていた。しばらくの間、父とは別の家に住むことになった。すぐ近くにある家だったが食事も別々だった。母が作った料理を父が仕事帰りに取りに来る。そんな状態でみんなさみしい思いだったが仕方がないと思つて我慢していた。

父は出張に出ても、外食できないため毎日毎食コンビニ弁当だった。本当にかわいそうだと思つたし、体を壊すのではないかと心配になった。いつまでこんな生活が続くのだろうと本当に嫌で嫌でたまらなかった。当時は国もどうすればいいかわからない状態で、国全体、地球全体が不安のオーラに包まれているような感じだった。なので私たちもどうす

ることもできなかった。

あれから数年がたった今、日本も世界もいろいろと変化していった。そして我が家も、もつと色々と変化していった。今では父の出張はほぼなくなり、リモートにかわった。毎日父が家に帰ってくる。今ではそれが当たり前になった。一緒に家に住み、一緒に食事をし、一緒に行動する。コロナ禍を経て気づけば我が家も大きく変化していた。

家族の在り方はその家庭それぞれで違っていて当然だと思う。我が家も今後どのような形になっても、家族は家族。お互いを大切に、思いやる。コロナ禍で今まで経験したことのない時間を過ごし、たくさんのかんじ、心が動いた。そんな数年間だった。

大変な中でも私たちのことを守るために毎日命を削って働いてくれている父に、本当にありがとうと感謝の気持ちがあふれてきた。でも、今は恥ずかしくて言葉にすることができな。いつの日か勇気を出してありがとうと伝えることができる日が来るように私自身も変化していきたいと思う。



「母さんっ！」

多津美中学校 二年

時山 彩音
ときやま あやね

「母さんっ！」私は一日に何回この言葉を口に出しているのだろう。勉強する時も、「母さんっ！これ何!?」掃除や家事を手伝う時「母さんっ！これどうやってやるん？」部活に行く時「母さんっ！水筒に水入れて！」中学二年生。十四歳ながらこんなにも母を頼っている自分を少し恥ずかしく、情けないと思う。

母は朝起きてまず洗濯をする。その後すぐ朝食を作り、父と私と弟を見送った後、自分も朝食を食べ、大急ぎで洗濯物を干し出勤。仕事から帰って洗濯物を取り込み、夕食を作り、家族がお風呂から上がったら最後に自分もお風呂へ。上がったら食器を洗ったり片付けたら、皆が寝てからやつと自由時間。土日はさらに野球の送迎や応援で一日中外出。改めて母の一日を思い返してみると、忙しさがよく分かる。私も将来自分の家庭を持つとこんな感じのスケジュールになるのかと想像するだけで大変さがすぐく伝わる。そんな毎日

忙しい母はたまにこう口にすることがある。

「母さんばかりじゃなくて少しは父さんを

頼つてもいいんだよ！」

この言葉を聞くと「あつ：母さんに負担かけちゃってるんだな：疲れさせちゃってるんだな：」と感じる。日頃どんなに忙しくても笑顔絶やさない母の疲れがちらつと見え隠れする瞬間。でも父より母の方が頼りやすい。何でも話せるし、つい甘えてしまう：勉強の時も、ネットや辞書で検索してみるより母に聞いた方が早いからついつい「母さんっ！これなんて読むん?」「母さんっ！この漢字何?」

と。掃除など家の家事を手伝う時、もし変にしてしまつて失敗したくないから「母さんっ！どうやってやるん?」「で、次は?」と。部活や学校の前なんて、「ごはんとみそ汁ついでいて!」「水筒に水!」「ブラウスにアイロンして!」：最初にも書いたが本当に情けない。母は拒否せず全て受けとめてくれる。それも笑顔で。もし自分が母の立場だったら、絶対面倒だらうなつて思つてしまう。母さん、迷惑かけてごめんね。そこで、私は考えた。どうすれば母がもつと楽になるだろう。どう

いう形で日頃の感謝を伝えようかと。そして思いついたのが次の案である。

一つ目。今以上に家事を手伝うこと。正直母が楽になれるために今の私ができることは、これ以外ない気がする。ご飯は作れない。というより、母に作ってほしい(笑)。だから掃除とか洗濯系はなるべく私がするようにする。

二つ目は感謝の気持ちを伝える方法。面と向かつて言葉で感謝を伝えるのは恥ずかしがり屋の私には向いていない。だから文字で感謝の気持ちを伝えようと思う。手紙を書いたり、かわいいフォトカードを使つたり、ラインでサラッと伝えるのも私らしくていんじゃないか：それに、プレゼントを渡すのも一つの手だ。母は花が好きだから花言葉を調べてみて、いい花があつたらその花を渡すのもいいかもしれない。

家の家事と仕事、さらに私たち兄弟の世話、定期的に行く私の洋服の買い物の付き添い、弟の野球の送迎、私が友達と遊ぶ時の送迎。母にしてもらっていることはまだ山ほどある。疲れてても笑顔を絶やさない優しい母に私は

今までの十四年間でどれほど助けられたらう。

一日に何度も口にする「母さんっ！」という言葉。何気ない日常の中で私はどれだけたくさんの感謝を伝えられるだろう。いや、きっと感謝してもしきれないはず。今はまだ中学生の私。大人になってもたくさん助けられるだろう。大人になっても「母さんっ！」と何度も口にするだろう。そして母は笑顔で応えてくれるんだろうな…そんな母に感謝している。本当にありがとう。私、まだまだ子供だから、成人するまでは甘えてもいいよね？ 頼っていいよね？「母さんっ！」

感謝



こころを支える

倉敷天城中学校 二年

五十君 いぢみ
春希 はるき

「学校やだ！」

私の家の朝は、弟が泣きながらこの言葉を言うことから始まっていた。私が五年生のときに弟が小学校に入学してきた。弟は朝、登校班が集まる時間になつても学校に行きたくない、と泣いていた。登校班のみんなが学校に着くのが遅くなつてしまう。私は登校班のみんなへの申し訳無さと弟への怒りがこみ上げてくる毎日だった。また弟は学校を休むようにもなつてきて、家にいる時間が増えた。それなのに、私が学校から帰つてくるとテレビを見ていて、私はつい、

「なんで病気でもないのに学校を休んでテレビばかり見ているの！」

と言つてしまった。怒りがこみ上げてくると共に、様々な事が目に付き、部屋の小片づけができていない事や宿題を終わらせられていない事もどんどん弟に言つていた。この事がきっかけで喧嘩になつてしまい、さらに両親も

私たちを怒つた。このとき、明るい家庭とは真逆なピリピリとした家庭であった。

その後、私は六年生になり、小学校を卒業した。弟は去年と変わらず、学校が嫌だった。私が小学生の間は私と同じ登校班で行けていたこともあり、私が中学生になつてから、弟の学校の嫌な度合いは増していった。学校に車で送迎してもらおうようになったり、休む事も増え、学校を視界に入れる事さえ吐き気がするようになっていた。私だつて弟が学校に行く事が辛いのは知つていた。それでも、母も父も祖父母も弟の事しか気にかけてないよに思えてきて、正直

「なんで、私は毎日勉強も部活もして頑張つているのに、毎日家で休んでいる弟のほうが優先されるの？」

と、不満はより高まっていた。本当に不思議でしょうがなかった。

弟が四年生になった。母も父も祖父母も、正直、私も不登校気味の弟が新しいクラスに馴染めるのか心配だった。そうやって心配している、教室ではなく別室に登校していた弟が教室に登校できるようになつていった。

また、平和の千羽鶴をクラスで作ることになったときには、弟と弟の友達二人が先頭となつて作り上げた。私は、なんであんなに学校を泣くほど嫌がついてた弟が学校に行けるようになり、学校でやりたいことも見つけられたのか気になった。母に聞いてみると、担任の先生がきっかけだったらしい。先生は弟に寄り添つて、母を交えた話し合いの場を作ってくれたり、教室にいるときもこまめに気にかけてくれたりしていたらしい。この事を聞いて、私自身の経験を思い出した。私も中学一年生のときに、受験して入った中学校の新しい友達に慣れずにいたとき、担任の先生や両親に相談をさせてもらつていたときがあった。悩みを聞いてもらつと、すつきりして、自信が持てるようになった。

夏休みに入つた。弟は学童に行つていたが学童も辛くなつて退所していたので、共働きの私の家庭は、私も部活があつて、弟が一人で一日留守番することが多かった。そんな中私が部活から帰つてくると、夏休みのワークを終わらせていた。その後もこんな日々が続いていたにも関わらず、弟は自分で一日の計

画を立てて、テレビを見る時間も減らして、弟なりに工夫して一生懸命に頑張っていた。

そして、私よりも夏休みが長く、それだけの宿題が出されているのに、弟は私よりも宿題を早く終わらせ、ついには自分で自由工作をするなど、自分で自分の課題を設定して頑張っていた。こんなに一生懸命頑張っている弟の姿を見ると、以前のように

「なんで、休んでいるのに片付けも宿題も終わっていないの!」

なんて言えない。夏休み中も弟と二人で過ごすことも多々あったが、今までのように喧嘩になるようなことはなく、私は弟の意見に、ちゃんと耳を傾けることを頑張ってみたり、片づけなどは二人で協力して、両親が家に帰ってきたら、ゆっくりできるような環境を目指して頑張ったりした。

この話のように、家族の環境の変化や気持ちの変化があると、私だったら、その人にすぐに共感するのは難しいし、すぐにフォローすることも難しい。でも、今回のように、周りにからフォローの仕方を学んだり、一緒に一日過ごしてみるだけでも、その人に寄り添え

る一歩になるかもしれない。今後も弟は学校のことや悩むだろうし、両親だつて仕事のことで悩みを抱えていると思うし、私自身も弟と同じように学校のことや悩むかもしれない。私は、弟の「学校が嫌」ということに対してすぐに受け取められなくて、フォローもなかなかできなかつた。だけど、これからは、悩みに気づいたら、話を聞いて、フォローし合える明るい家庭を築いていきたい。



家族との思い出

琴浦中学校 三年

舟橋 俊仁
ふなはし としひと

四年前、家族で初めてシンガポールへ旅行に行きました。マライオンや美しい景色を見たり、テーマパークで遊んだりして、家族全員で思いきり楽しんだことを今でも覚えています。その時に母が、「こんなふうに家族で旅行に行くのも後、何回できるかな」とつぶやいていたので、私は「まだ何回でもできるだろう」と思っていました。

私は五人家族で、両親と私を含めた三人兄弟です。父はサラリーマン、母は看護師として働いています。私は三人兄弟の次男で、兄は高校二年生で剣道をしていて、弟は中学一年生で私と同じ陸上部です。私は三人兄弟に産まれてきたことがすごくうれしです。なぜなら、暇な時は一緒に遊んでくれるし、勉強の教え合いもできるからです。父は私が困った時にはすぐに助けてくれるし、母は忙しくても私達の健康を考えて、毎日三食欠かさず作ってくれるのでとても助かっています。

両親はすごく優しいし、兄弟との時間も楽しいし、本当に最高の家族だと思っています。

そんな私の家族はよく旅行やドライブに行きます。遠方へ出かけて宿泊することもあれば、近場で一日ドライブをすることもあります。昔は夏祭りで花火を見ることや、スキーなどの色々なイベントに行つてとても楽しかったことを覚えています。しかし私はある日あることに気づきました。それは、最近家族旅行をしていないことです。理由は新型コロナウイルスの影響や私自身が受験生だということからです。しかし、旅行に行かなくなつてしまつているのは「私のせいではないのか」と考えることがあります。私は中学生になつてからは、楽しみだつた家族との旅行や外出が「めんどくさい」と思うことが増えてきました。先日の日曜日にも母に「ちよつとドライブに行かん?」
と言われ、

「もう今日は休みたい」と断つてしまいました。中学生になつてからは休日も部活になることが多くなり、「何も無い日曜日くらいゆつくりしたい」

と思つていたからです。

私は中学生になつて家族でどこかに出かけるといふことに対して、少し抵抗を感じるようになってきました。それまで家族と行つていた夏祭りも家族と一緒にいるところを友達に見られたくないし、友達といた方が楽しいからです。初日の出でも家族といふところを見られるのがはずかしいから少し離れたところで見っていました。せつかく家族で来たはずなのに「はずかしい」や「みんなに見られたくない」といった感情から、一緒に行動することを自然としないようにしている自分がいました。そのうち私は母がどうして家族での旅行やドライブにこだわるのか気になりました。「家族との時間は家で作ることができるのになぜなんだろう」と疑問に思いました。だから私は、

「なぜ家族で旅行やドライブに行きたいのか」と母に聞いてみました。母は、
「自分が十歳の時に母親が病気で死んでしまった家族旅行やドライブに行くことができなかつた。だから自分が母親になつたら家族で楽しい思い出をいっぱい作ろうと思つて

いた。そして君たちが将来結婚して父親になつた時にその家族で子供たちと楽しい思い出を作つて次の世代につなげてほしい」と言いました。それを聞いて私は驚きました。

なぜなら家族旅行に行く理由は母の一方的な考えだと思つていたからです。私は「めんどくさい」「家でゆつくりしたい」と言つて旅行やドライブを断つていたことを少し後悔しました。そして

「夏祭りや花火大会を家族で出かけるより友達と行く方が楽しいし、家族で一緒にいるところを見られたらはずかしい」と母に言つてみると

「そう思うのが当たり前。正解。心が成長している証拠。」

と言われました。その時、ふと母とのシンガポールでの会話を思い出しました。あの時母は「家族で旅行に行くのも後、何回できるかな」と言つていたけど、それは旅行に行つた回数などではなく成長した子供たちともできるだけ思い出を増やしていきたいという母の想いだつたことに気づくことができました。

今回、母に「なぜ家族で旅行やドライブに

行きたいのか」と聞いてみることで、母の家族に対する思い、次の世代に対する願いを知ることができました。新型コロナウイルスの影響や、私たち兄弟の成長で家族が共に過ごす時間は少しずつ減つているのかもしれない。ですが、私は友達と過ごす時間も大切にすると共に家族全員でそろつた時は一つ、また一つと家族の思い出をどんどん増やしていきたいと思えます。最後に、今の私ならシンガポールの時の母への返答は、笑顔で「これから何回でも家族旅行して思い出を作つていこうね」と言えそうです。



長生きしてね。

船穂中学校 三年

津郷^{つこう} 華乃^{かの}

あなたはおじいちゃんおばあちゃんを大切にできていますか。

私には「ちゃん」と「バービー」というおじいちゃんとおばあちゃんがあります。何故そんな風呼んでいるかというが一番最初の孫が「ちゃん」「バービー」と言ったからだと思います。友達にこの呼び方を話すと大抵笑われます。ですが、私はちゃんとバービーという呼び方が大好きで恥ずかしいと思つたことは一度もありません。そんなおじいちゃんとおばあちゃんは私の家から車で二十分くらい離れたところに二人暮らしをしています。そして私を含め孫が九人もいます。九人もいる孫ですが、みんな平等にそして優しく愛情をそそいでくれます。時々ビデオ電話したり野菜を持つて来てくれたり、夜ご飯を食べたり、それぞれの孫の習い事や学校行事に参加したり、ここでは言い切れないほど色々なことをしてくれます。そのなかでも私が小学生の頃

ピアノの発表会があり、おじいちゃんとおばあちゃんも家族と一緒に見に来てくれた時のことを今でも覚えています。ピアノを習つて初めての発表会で多勢の観客の一人でピアノを弾くことにすごく緊張していました。でも、おじいちゃんとおばあちゃんは私に、「かのならできるよ。頑張つておいで。」と優しく声をかけてくれたおかげで少し緊張がほぐれ、堂々と弾くことができたことを鮮明に覚えています。おじいちゃんとおばあちゃんの言葉の影響力はとても大きく、それと同時に安心できると実感しました。私たち孫を大切にしてくれているおじいちゃんとおばあちゃんを私も大切にしなければなりません。ですが、私は最低なことをしてしまったのです。ある日、私が起きる朝六時におじいちゃんが野菜を持ってきてくれました。私は朝起きた顔を人に見られるのがすごく嫌で、その上機嫌が悪いのです。だから、おじいちゃんが私に、

「おはよ!!」
と言つてくれたのに私は冷たい態度で「おはよ」

と言つて洗面所にすぐ入りました。そして数分後私が洗面所から出た時にはおじいちゃんはいませんでした。お母さんに「ちゃんは？」と聞くと

「かのがあんな態度取るけん帰つたよ」と言われ私は涙が出ました。なんであんな態度をとってしまったのか自分が嫌になりました。朝起きて機嫌が悪くてもあんな冷たい態度をとるのは最低だし、おじいちゃんも絶対傷ついたらだろうと思いました。そして二日後おじいちゃんは病気のため手術をしました。もしかしたら私の家に来たのは野菜を届けるためだけではなく手術のために元気をもらいに来たのではないかと思いました。なのに私の行動一つでおじいちゃんを傷つけてしまいました。そして何より「頑張つてね」の大切な一言が言えなかつた自分が憎く、情けなく思いました。そしておじいちゃんが無事手術を終え退院した時には、私の前の態度で傷ついているのにそれを忘れていたかのようにつきも通り優しく接してくれました。謝ろうと思つていた私はいつも通り優しく接してくれ

るおじいちゃんを見て謝ることができませんでした。ですがその時私は、今まで以上におじいちゃん、もちろんおばあちゃんを大切に、やってしまったことを態度で償つていこうと私はおじいちゃんとおばあちゃんに心の中で誓いました。

そして、最後に私たち孫がおじいちゃんおばあちゃんにしてあげられることは私たちにしてくれている事に感謝し、おじいちゃんおばあちゃんを大切にすること。何より一番大切なことはおじいちゃんおばあちゃんの笑顔を増やしていくこと。これが孫からの最高の贈り物だと思います。小さなことでもいいのです。会ったときに

「野菜持つてきてくれてありがとう。」

些細なことでもいいんです。私たちの大好きなおじいちゃんおばあちゃんの笑顔が増えるなら。だから私はおじいちゃんとおばあちゃんの笑顔をずっと見ていくためいつまでも

「ちゃん、バービー、長生きしてね」と言い続けます。



令和4年度「明るい家庭づくり」作文募集要項（倉敷市）

公益社団法人岡山県青少年育成県民会議(以降県民会議と記載)では、標記の作文を募集しています。この募集に際し、倉敷市では次の通り自作の未発表作品を募集します。

記

- 1 主題 「明るい家庭づくり」を主題としたもの。例えば、
 - ・小・中学生の場合：「がんばる家族のすがたを見て」「家庭の中での私の仕事」「家庭の中での話し合い」「大人になったらこんな家庭をつくりたい」「家族で〇〇に参加して」（〇〇は地域活動・行事）等
 - ・保護者の場合：「親と子のふれ合い・対話」「わが家の子育て方針」「家庭同士のふれ合いや助け合い」「家庭に関する社会問題について考えたこと」等

2 対象

- (1) 倉敷市内の小・中学校に在籍する児童・生徒。（応募先が県民会議であるため、特別支援学校は除く）
- (2) 倉敷市内に在籍する園児・児童・生徒の保護者及び勤労青少年。

（表；制限枚数）

3 応募方法

- (1) 作文はB4判またはA4判400字詰原稿用紙を使用（小学校低学年はA3判原稿用紙でも可）し、制限枚数(右表の通り)を厳守する。

小学生（1～2年）	2枚以内
小学生（3～6年）	3枚以内
中学生・保護者・勤労青少年	5枚以内

- (1) 行目に題名・2行目に学校名・学年・氏名(ふりがな)を記入し、3行目から本文を書く)
- (2) 提出先は、倉敷市教育委員会生涯学習課「明るい家庭づくり」作文係。
- (3) 小学生・中学生が応募する場合は、在籍する学校が取りまとめて提出する。
各校で選考した各学年2点までの作品が応募できる。作品には、別紙1（「明るい家庭づくり」作文原稿用紙貼付用紙）を貼付する。また、別紙2（「明るい家庭づくり」作文 教育委員会送付作品一覧表）を添付して提出する。
- (4) 応募締め切りは、令和4年9月12日（月）(必着)。
※保護者及び勤労青少年からの応募作品には、住所・電話番号・児童生徒が所属する学校園名・勤務先名等を記載した書類を添付して直接提出する。

4 倉敷市長表彰（小学生・中学生に限る）

応募作品について、各学年10点の一次審査通過作品を選考し、その中から各学年2点の優良賞作品と各学年1点の優秀賞作品を市長表彰する。（10月上旬頃に受賞決定の通知をする。）
優秀賞受賞者は、翌年2月頃に開催する表彰式に参加し、作文を発表する。受賞者には賞状及び記念品を贈り、作品は県民会議へ推薦する。
優良賞受賞者には賞状を、一次審査通過作品には学校を通じて記念品を贈る。

5 その他

- (1) 優秀賞作品以外の作品は、返却する。
- (2) 市長表彰作品の著作権は生涯学習課に属することとする。
- (3) 倉敷市長表彰作品(優秀賞・優良賞)と一次審査通過作品は、作文・学校名・学年・氏名等を掲載して作文集として発刊したり倉敷市教育委員会生涯学習課のホームページに掲載したり、県民会議や市での青少年健全育成運動資料等として活用されたりすることがある。
- (4) この要項は、この募集に関し県民会議が定める要領のほか、倉敷市教育委員会生涯学習課が必要な事項を定める。

一次審査通過者一覧

◆小学生の部◆

【一年】

倉敷西小学校	山崎 仁乃
老松小学校	田邊 栞依
老松小学校	平坂 莉衣菜
万寿東小学校	吉岡 瑛翔
中庄小学校	大山 紗奈
庄小学校	藤永 凜
第四福田小学校	北條 杏
郷内小学校	大倉 芽唯
玉島小学校	大室 心愛
船穂小学校	淺野 姫依

【二年】

万寿東小学校	勇夏 帆
倉敷南小学校	永瀬 由梨
菅生小学校	中村 帆花
茶屋町小学校	藤原 環那
西阿知小学校	上田 晴香
天城小学校	金丸 愛理
下津井西小学校	南條 一臣
琴浦東小学校	石原 沙菜
玉島小学校	上野 朱音
長尾小学校	赤堀 葉月

【三年】

老松小学校	福島 美緒
第一福田小学校	中田 さら
連島南小学校	堀 優月
味野小学校	濱田 蒼斗
琴浦東小学校	香川 泰知
上成小学校	末永 蒼翔
長尾小学校	道廣 達也
長尾小学校	松下 絢音
蘭小学校	三海 胡音
箭田小学校	梅崎 滯奈

【四年】

中庄小学校	松本 一楓
菅生小学校	米里 友佑
菅生小学校	寄田 有射
連島西浦小学校	寺坂 一馬
琴浦南小学校	佐々木 一太
玉島小学校	石井 彩馨
長尾小学校	谷本 幸大朗
沙美小学校	日吉 悠喜
船穂小学校	園田 莉菜
箭田小学校	見立 彩歌

【五年】

葦高小学校	糸島 宏真
倉敷南小学校	大下 由真
倉敷南小学校	上山 朔采
带江小学校	藤原 ひなた

第二福田小学校

連島東小学校	樋口 杏樹
琴浦西小学校	渡辺 さくら
郷内小学校	天元 萌衣沙
上成小学校	水本 苺華
柏島小学校	青木 智哉
	田村 優芽

【六年】

中島小学校	水谷 駿介
带江小学校	平元 心結
西阿知小学校	小西 花歩
連島南小学校	藤田 碧人
下津井西小学校	西川 天
琴浦西小学校	石川 逞馬
船穂小学校	久保田 悠生
川辺小学校	井口 菜南
箭田小学校	横溝 由太
箭田小学校	入江 柚奈

◆中学生の部◆

【一年】

西中学校	森永 柚希
西中学校	井上 こよみ
福田中学校	妹尾 優那
連島南中学校	荒武 来翔
琴浦中学校	瀨溝 咲姫
玉島北中学校	眞賀里 陽人
船穂中学校	川本 蒼也
眞備東中学校	田辺 桜咲心

眞備東中学校	樫野 莉輝
倉敷天城中学校	西井 結惟

【二年】

多津美中学校	時山 彩音
新田中学校	中野 とあ
新田中学校	山並 歩
東陽中学校	永山 結柳
東陽中学校	下元 彩加
玉島北中学校	眞賀里 昂太
船穂中学校	難波 爽
眞備東中学校	江口 彩花
倉敷天城中学校	五十君 春希
倉敷天城中学校	寺本 蒼空

【三年】

西中学校	妹尾 心福
南中学校	高田 應次郎
福田中学校	三宅 心菜
水島中学校	矢部 七葉
味野中学校	草薙 こなつ
琴浦中学校	難波 真央
琴浦中学校	船橋 俊仁
黒崎中学校	岡部 明日香
船穂中学校	津郷 華乃
倉敷天城中学校	大森 藍



倉敷市青少年を育てる会
令和4～5年度活動スローガン

令和4年度

「明るい家庭づくり」作文集

令和5年2月発行

発行・編集

倉敷市教育委員会生涯学習課

〒710-8565

倉敷市西中新田 640 番地

電話・086-426-3845

倉敷市

「明るい家庭づくり」作文

検索

リサイクル適性 **A**

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。